

氏名	DEY ASHOKA
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3188号
学位授与の日付	平成10年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Antibody and cytokine response in <i>Helicobacter pylori</i> -infected various mouse strains (ヘリコバクターピロリ菌感染各種系統マウスにおける抗体およびサイトカインの産生)
論文審査委員	教授 中山 審一 教授 辻 孝夫 教授 岡田 茂

学位論文内容の要旨

ヘリコバクター・ピロリ菌 (*H. pylori*) は病因的に慢性活動性胃炎、消化性潰瘍と深い関連性を有している。

本研究において我々は、4週令の3種類の近交系マウス (BALB/c, 15匹; C3H/He, 18匹; C57BL/6, 11匹) に、*H. pylori* を胃内に週1回注入投与後、宿主の免疫反応と胃の炎症強度の相関性について検討した。マウスは4ヶ月及び7ヶ月令で屠殺し、胃の組織像を検索すると共に、抗*H. pylori*抗体価、血清のサイトカイン (IL-4, IL-10, TNF- α , IL-2, インターフェロン γ) レベルを測定した。IL-2を除いてサイトカイン産生が弱ったBALB/cマウスでは胃の炎症は殆どみられず、すべてのサイトカインの産生がみられたC57BL/6とC3H/Heマウスでは、それぞれ63.6%と33.3%に炎症が惹起された。2匹のC3H/Heマウスはリンパ濾胞を伴った高度の炎症を示したが、1匹はTh1反応優位、他方はTh2反応優位であった。以上の結果からTh1/Th2反応と炎症の強度の間に明確な相関性はみられず、Th1反応とTh2反応の両者が*H. pylori*による胃炎の惹起において重要な役割を演じていることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、近交系マウスを用いて、*H. pylori* 菌による胃炎と種々のサイトカインおよび抗体産生を指標にした宿主の免疫反応との関連を検討したものである。この結果、Th1とTh2の両方の経路が炎症に関与していることが示唆された。本知見は、*H. pylori* による胃炎の病態解明に価値ある業績であると認める。よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。